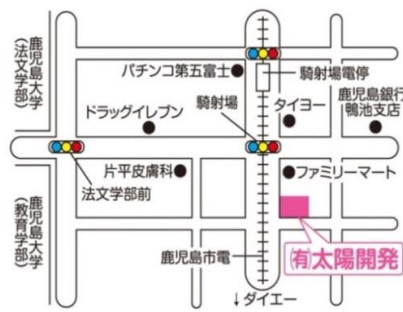
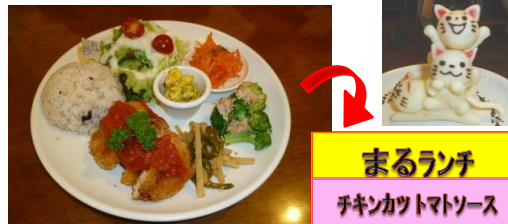


# SUNSHINE

第 78号 2014年 7月発行  
 有限会社 太陽開発  
 鹿児島市鴨池2丁目1-12 TEL099-255-3623  
 E-Mail master91@taiyou1991.com



## まるカフェ

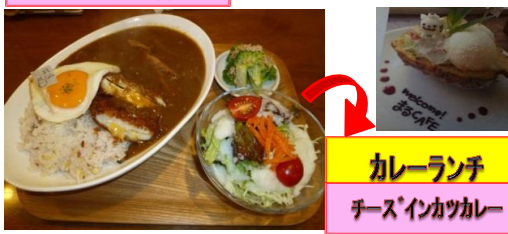


まるランチ  
チキンカツマトソース



キッシュランチ

鮭とアスパラ  
しめじのキッシュ



カレーランチ  
チーズインカツカレー

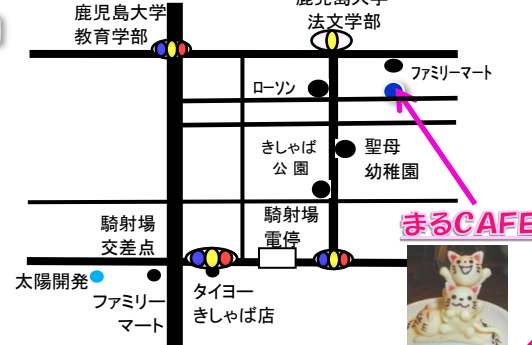


デザート♪



以前サンシャインでご紹介させて頂いたことのある『CAFET』さんのあとを当時アルバイトしていた女の子(今別府さん)が、新に自分のお店を持ち今年2月にオープン致しました♪名前は【まるCafe】さんです♪  
 将来は、自分のお店を持ってカフェをしたいという思いで、当時は、アルバイトに励んでいたそうです。  
 まるCafeでは、皆様の心がまるくほっこりなりますよう一品一品、心をこめてすべて手作りでさせて頂いております(\*^ ^\*) 『お店の名前の由来でもあります』  
 ランチメニューは、毎日日替わりで替わります。  
 私達(女性4人)が頂いたランチメニューは、左記に掲載♪  
 1つのお皿に5種類のおかずがのっていて、彩りもよく、食欲が増えます！  
 サラダにかかっている白いシャベットのドレッシングが、とっても美味しくてみんな絶賛。食後にデザートまで食べちゃいました。  
 店内には、今別府さんのお友達が作られた手作りのアクセサリーや小物が販売されております。、すごくかわいいものばかりですので、お待ち頂いている間にご覧になってみて下さい★

手作りアクセサリー・小物



## 賃貸マンション(オーナー様)をご紹介します！

今回は、マンションオーナーの市原様が西陵に所有されております、【ウイングヒルズ】をご紹介します。  
 昭和60年築(築29年)ではありますが、右の写真の通り、とってきれいにリフォームされております！外装はもちろん、内装も、全部屋和室だったお部屋を、2部屋は洋室ヘリフォーム☆独立洗面化粧台やウォシュレットも完備しています。しかも家賃は駐車場も入れて4万円台ととっても良心的です！西陵小学校や公園にも近く、徒歩圏内にスーパー・コンビニがあるので、ファミリー世帯向けのアパートです。とにかく、「入居者が気持ちよく入居して頂ければ」というお考えで、空室が出たときは試行錯誤される市原様。  
 他にも、紫原に3棟、桜ヶ丘にも1棟、マンションを所有されており、なんとつ!!40年以上アパート経営に携わっていらっしゃる。市原様が30代の頃、お父様が投資目的で購入された一軒家を、代わりに管理・経営された事をきっかけに、少しずつ物件が増え、今に至るそうです。  
 賃貸経営において、市原様がモットーにしていることは「入居者様からどんな小さな苦情があってもすぐに対応する!!」ということ。私も太陽開発もマンション管理において、市原様を見習い、入居者様の立場に立った対応を

## ウイングヒルズ オーナー 市原 様



先日、仕事で広島へ行つたついでに、広島平和記念公園と世界遺産厳島神社を有する秋の宮島を訪ねてきました。今回は、宮島を御紹介します。JR広島駅より宮島口まで約30分、そこからフェリーで約10分、宮島到着です。フェリーに乗船して数分で、海上に建つ大鳥居と厳島神社が見えてきます。フェリー到着後、平清盛像の横を通り、厳島神社まで歩きました。厳島神社が現在の威容を構築したのは、平氏一門の後盾を得た平安時代末期である。平清盛は高野山の高僧に「厳島神社を厚く信奉して社殿を整えれば、必ず位階を極めるであろう」と進言を受け、海上に浮かぶ現在の壮麗な寝殿造りの様式に造営したそうです。ここで厳島神社を造営するに当たり2つの工夫をご紹介します。

ひとつは、社殿の渡り廊下や床板が固定されておらず、床板が数ミリの隙間をとって施工してある為、海面が上昇しても、水圧で社殿に与える影響が分散されるように工夫されているので、海上に浮かぶ社殿が保たれています。  
 もうひとつは、海上にある大鳥居ですが、海の中に松の杭を基礎を作り、大鳥居は基礎と繋がれておらず、自らの重み(鳥居上部の島木の中に約7トンの玉石が詰めてある)だけで基礎の上に立っているそうです。当日は非常に運良く、社殿の中で結婚式が厳かに取り行われていた最中で、私は日本伝来の様式美に直に触れることができ、身が引きしめる思いがしました。また、潮の関係で、大鳥居は海面に建っていましたが、社殿の下は海水が引き、砂が一面広がっていました。天候、潮の満満、時間等によって、訪れる人の印象(風景)が全然違うものになるという、奥の深い所が厳島神社人気のある所以だと思います。

次に宝物館、宮島歴史民俗資料館、大願寺、大聖院、千畳閣と約2時間半かけて回りました。この中で、宮島歴史民俗資料館はとても充実した資料館でした。資料館は、江戸時代後期から明治にかけて醤油の醸造を営み豪商といわれた江上家の古い町家を保存しながら、展示館としてつくられた文化施設です。宮島の歴史、文化、平家一門の厳島神社信仰に関する資料等が豊富に展示してあり、じっくり時間をかけて見えてきました。

今回、広島へ行き感じたのは外国(西洋)の観光客が非常に多いということです。広島市内には、原爆ドーム、広島平和記念資料館等、戦争、原爆の惨禍を伝え、平和を考えさせられる貴重な建物等があるからだと思います。広島へ行く前に、たまたまインターネットで、平和記念資料館に展示してある「被爆人形」の撤去が話題になっていました。この被爆人形は、成人女性と女学生、少年の3体あります。3体の人形は、火傷でたれた両腕を前に突出し、ボロボロの服でがれきの中をさまよう被爆者の様子を再現しています。私は実際人形を見て、「被爆人形」を撤去しなければならぬ必要性は感じませんでした。かえって撤去する行為に何か違和感を感じました。  
 まだ、原爆ドーム、広島平和記念資料館へ行ったことがない人は、ぜひ一度は訪れてみて下さい。



1926(大正15)年、高知市生まれ。17歳で結婚、夫と共に満州へ渡り、敗戦。九死に一生の辛苦を経て、46(昭和21)年帰郷。県社会福祉協議会に勤めながら執筆した'62年の「連」で女流新人賞。上京後、9年余を費やし'72に上梓した「權」が太宰治賞、'78年の「一絃の琴」により直木賞受賞。他の作品に「寒椿」('77年刊、女流文学賞)、「序の舞」('82年刊、吉川英治賞)。



## 今月の一冊 きのね

宮尾登美子 No.79

④上野の口入れ屋の周旋だった。行徳の塩焚きの家に生まれた光乃は、当代一の誉れ高い歌舞伎役者の大所帯へ奉公にあがった。昭和八年、実科女学校を出たの光乃、十八歳。やがて、世渡り下手の不器用者、病癒えて舞台復帰後間もない当家の長男、雪雄付きとなる。使いに行った歌舞伎座の楽屋で耳にした、幕開けを知らず拍子木の、鋭く冴えた響き。天からの合図を、光乃は聞いた…。  
 ⑤夢み、涙し、耐え、祈る。梨園の御曹司、雪雄に仕える光乃の、献身と忍徳の日々。雪雄の愛人の出産や、料亭の娘との結婚・離婚にも深くかかわる光乃。一門宗家へ養子に行く雪雄につき従い、戦中の、文字通り九死に一生の苦難をも共に乗り越えた光乃。続く戦後の混乱期、雪雄の子を宿していると感じた光乃の、重い困惑と不安…。健気に、そして烈しく生きた、或る女の昭和史。(新潮文庫裏表紙より)

今回取り上げる作品は、実在の人物がモデルの宮尾登美子の長編小説『きのね』です。その人物とは、第十一代市川團十郎の千代夫人。昨年亡くなられた第十二代市川團十郎のご母堂様、現在の市川海老蔵のお婆様ですね。宮尾登美子さんが団十郎夫人を書いてみたいと思ったのは、一枚のグレア写真がきっかけだったそうです。その写真の千代夫人はたいそう控えめな印象で「これが今をときめく海老サマの奥様か…」と思って、それから調べて調べて、やがて書きたくなったのだそうです。人気役者の私生活を小説にするとすれば、各方面から相当な反対があったそうですが、それらを跳ね除け、丁寧に調べあげ、ここまで素晴らしい小説を書き上げた宮尾登美子さんの熱意と、情熱、執念そして小説家としての力量に感心させられます。  
 これまで歌舞伎には関心の無かった私ですが、この作品をきっかけに俄然興味が湧き、先日上京した際に、新歌舞伎座で六月大歌舞伎を鑑賞しました。面白かった！なぜこれまで関心を持たなかったのか悔やまれる程ですが、これからは機会があれば観に行つつもりです。楽しみが増えました。私に歌舞伎への

(原爆死没者慰霊碑)